

さし木で殖やせる抵抗性クロマツ 『虹青（こうせい）』の選抜

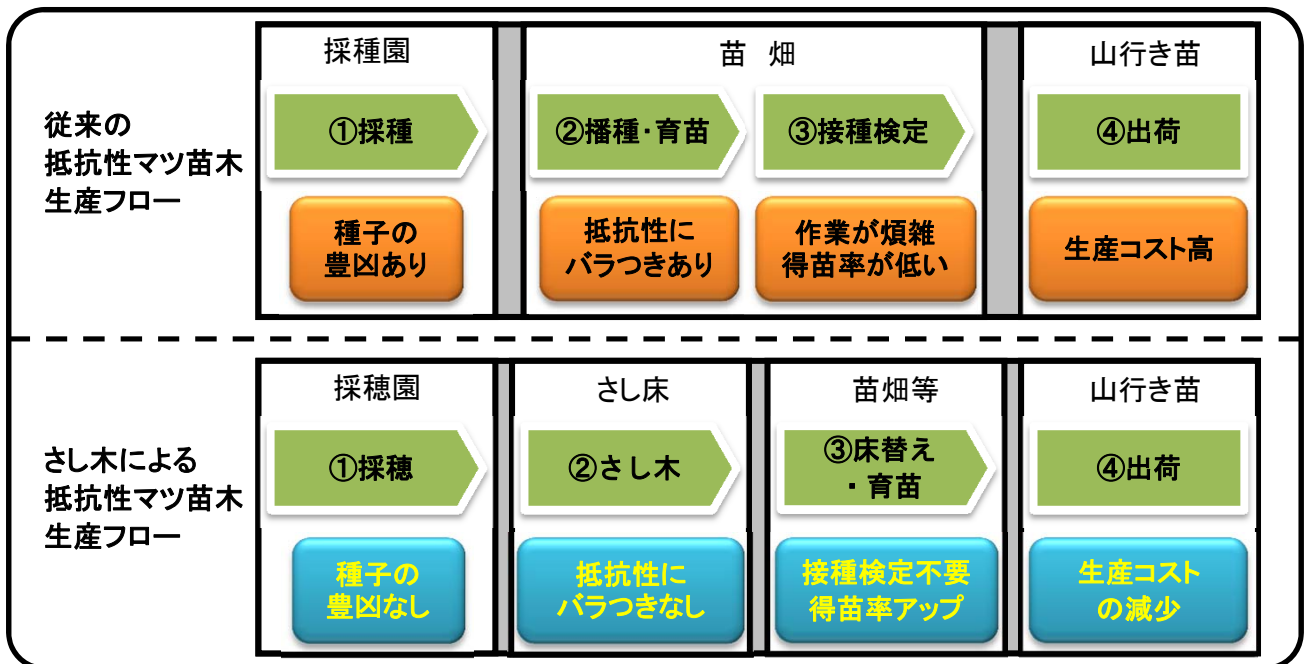
研究開発担当 真崎 修一

はじめに

現在、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ(以下、抵抗性クロマツ)の苗木は抵抗性クロマツ採種園産の種子から育てられているため、親の抵抗性を受け継いでいるとは限りません。

このため、マツノザイセンチュウの人工接種による抵抗性の確認(=接種検定)が必要ですが、接種検定は夏場に行う重労働であり、得苗率も低い(50%未満)ことから苗木の生産コストが高くなるという問題があります。

そこで、佐賀県林業試験場では、接種検定を必要としない、『さし木で殖やせる抵抗性クロマツの選抜』に取り組んできました。



研究の内容

○さし木で殖やせる抵抗性クロマツ新品種『虹青（こうせい）』の選抜

佐賀県林業試験場では平成7～18年にかけて、さし木に適した抵抗性クロマツを選抜しました。名前は『虹青(こうせい)』です。

(※名前は公募により決定。虹の松原の『虹』と白砂青松の『青』のイメージ)

選抜した虹青は、『さし木で殖やせる抵抗性クロマツ』として品種登録を行いました。

(H21年7月31日登録)

○虹青の特徴

一般的に、クロマツはさし木が難しい樹種ですが、虹青は**平均発根率が90%以上と非常に高く**、さし木による苗木生産が可能です。

さし木で殖やした苗木は元の木(母樹)と遺伝子的には全く同じ(クローン)なので、母樹の持つ性質(ここではマツノザイセンチュウ抵抗性)をそのまま引き継いでいます。

したがって、さし木で殖やした苗木は接種検定で抵抗性を確認する必要がないため、抵抗性の均一な抵抗性クロマツ苗木を効率的に生産することが可能です。



採穂台木



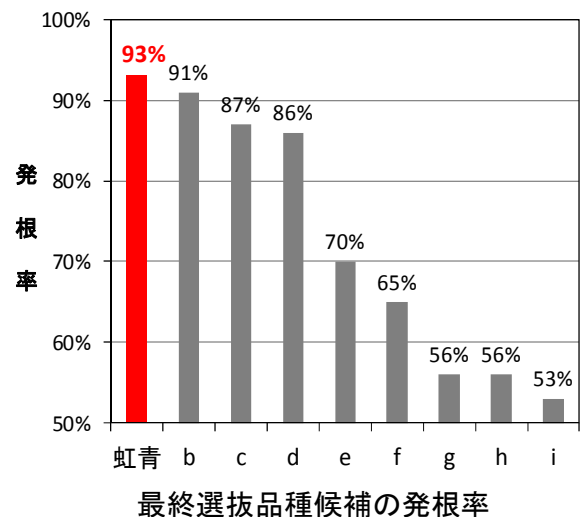
さし木状況



発根状況

虹青の選抜過程

H7年春	抵抗性クロマツ採種園(唐津市鎮西町)で自然交配
H8年10月	球果採取、選別、低温保存
H9年3月	林試苗畑に播種(種子798粒)
H10年3月	発芽した実生苗を床替(640本)
H11年7月	マツノザイセンチュウ(島原個体群)の接種検定苗木1本当たり5,000頭接種
H11年12月	接種検定合格苗を用いて林試内に採種園を造成植栽本数156本
H12~17年	採種園からさし穂を採取し、さし木試験を実施
H15~17年	さし木試験で得られた苗(1.5年生)に対してマツノザイセンチュウ接種試験を実施(生存率 平均70%以上)



虹青の普及

現在は、苗木生産に向けて、採種園を造成・育成・拡大しながら生産体制の整備を進めています。これまでに平成22年春(1回目)と平成23年春(2回目)に採穂を実施しており、採穂した穂木は苗木生産者の手によってさし木され、苗木へと育てられているところです。

今後、虹青の苗木が松くい虫被害地等へ植栽されることにより、県内各地の松林の保全に役立つものと期待しています。



虹青の採種園整備状況